

Heart of Tajimi

－たじみ市民討議会 2013－

実施報告書



2013年11月

たじみ市民討議会 実行委員会

目次

● はじめに	1
● 第1章 市民討議会について	3～7
1 - 1. 市民討議会とは	3
1 - 2. たじみ市民討議会について	
Heart of Tajimi たじみ市民討議会 実施概要と経過	4
1 - 2. 1 『たじみ市民討議会』の目的	
1 - 2. 2 概要	
1 - 2. 3 報告書の位置付け	
1 - 2. 4 協定書締結	
1 - 2. 5 運営組織	
1 - 2. 6 活動の足跡	
1 - 3. 討議方法	6
1 - 3. 1 討議テーマ	
1 - 3. 2 参加者について	
1 - 3. 3 謝礼について	
1 - 3. 4 情報提供について	
1 - 3. 5 話し合いのルール	
1 - 3. 6 投票	
● 第2章 討議会の結果と提言について	8～12
2 - 1. 討議会における意見のまとめ	8
2 - 2. 提言書	11
● 第3章 たじみ市民討議会の検証	13
3 - 1. たじみ市民討議会の有効性	13
3 - 2. たじみ市民討議会の効果	13
3 - 3. 今後の取り組み	13
● 終わりに	14
● 参考資料	15～46
・ プラヌクスツェレ（計画細胞）とは	15
・ 討議シート	16
・ 参加者アンケートの結果	36
・ 新聞記事	38
・ 記録写真	41

・ はじめに

この報告書は、多治見市と市民討議会実行委員会が、たじみ市民討議会を実施するに当たり協定を結び、『日本一住みやすいまち 多治見にするには』をテーマに実施した、「Heart of Tajimiーたじみ市民討議会 2013ー」の結果を集計・分析し、内容を報告するとともに実施内容を検証したものである。

多治見市において『市民討議会』は 2009 年に(社)多治見青年会議所が企画立案し、多治見市との共催で第 1 回目を主催したのが始まりである。

(社)多治見青年会議所が中心となり、討議会参加者の有志を募って実行委員会を組織し、市民の「声なき声」を行政に反映させる市民参加の仕組みの礎を整えた。

5 年目となる今年は、(社)多治見青年会議所及び市役所の協力、支援を得て、初めて市民ボランティアが主導する実行委員会を組織して企画運営にあたった。

20 歳以上の多治見市民を対象に 1,600 人の市民に参加依頼書を送付し、34 人の参加承諾を得て、当日は 23 人の市民に参加して頂いた。

『日本一住みやすいまち 多治見にするには』を基本コンセプトとして、今年は『子ども』を討議のキーワードとした。

少子高齢化が加速度的に進展する現代社会において、当市においても例外ではなく社会福祉の充実が喫緊の課題となっている。

とりわけ次代の多治見を担う青少年の健全育成は、私たち社会人の共通の責務であると考え、「高齢者の知恵」と「子どもの活力」を有機的にマッチングさせてまちの活性化を図り、若者たちに多治見の魅力を知ってもらい、良い経験と良い思い出を沢山提供する事で「このまちに住みたい」「ここに生活の基盤がある」と思って貰いたい。一旦ここを離れても「いずれここに帰ってくるんだ」と思って貰えるたじみにしたいと考え、①子どもと大人が上手に関わり合うまちにしたい、②子どもにたじみを好きになって貰いたい、③子どもが安心して生活できる地域にしたい、そして、④私たちは地域の子どものを健全に育てるために何をしたらよいのだろうかを討議テーマとして広く市民の声を集約した。

参加者は 5 つのグループを形成し、それぞれの討議テーマについて熱心に意見交換した結果を『今』取り組むべき課題として提言を提出することができた。

この報告書を市民提言として多治見市に提出するにあたり、提言内容を『市民の声』として多治見市の施策に反映して頂く事を祈念するものである。

最後に、『たじみ市民討議会』を開催するにあたり参加して頂いた市民の皆様、古川雅典多治見市長、行政関係各位、(社)多治見青年会議所メンバー各位に厚くお礼申し上げたい。

たじみ市民討議会 実行委員会

実行委員長 あいさつ

委員長として

一回目に市民として選ばれ討議会に参加し、二回目よりボランティアスタッフとして活動してきました。そして、今年は委員長という大きな役をさせていただきました。

委員長として、一人でできる事は1つもなく、副委員長をはじめ全スタッフに助けられました。

職業も年齢もばらばらなスタッフが、1つの思いを胸に進んできた委員会、意見を言い合い一緒に悩む。これほどお互いを高め合うことができる委员会は無いと思います。

私自身も今まで以上に意識も高くなり成長することができました。本当にありがとうございました。

市民討議会をすることによって参加する市民が『多治見』について考え、意識を高める事を目的と考えています。

今年度は、これからの多治見を支える子ども、また多治見と一緒に育っていくためにはどうしたらよいのかを考えてもらいました。当日までに何度も委員会を開き、具体的な討議内容、補助係の練習など準備をしてきました。

当日の、市民の方の参加は23人と多くない人数でしたが、皆さんの意識が高く、いろいろな意見が出て、討議の時間がどれだけあっても足りないくらい白熱した会議ができたと思います。

今後の課題として、今年は市民ボランティア主体の実行委員会による初主催でしたが、まだまだ

(社)多治見青年会議所との協力が必要でした。それをどう市民ボランティアのみで行うか、多治見市民にどう周知させるか。

また、テーマ内容、コマ数、人数など、まだまだ改善できることはあります。

今年は、今までの委員長の意図を受け継ぎながら、今までの形にこだわらない様に、たくさんスタッフの意見で作上げてきました。今後はさらに多治見のオリジナルを作っていかなくてはいけないと思いました。

まだ始まったばかりの委員会。この市民討議会が多治見にとって重要な委員会になり、市から課題解決の助言が来るような形を目指していきたいと思います。

スタッフの支えのおかげで委員長を最後まですることができました。

(社)多治見青年会議所、市役所の皆さま、本当にありがとうございました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

たじみ市民討議会 実行委員長
水野 智恵子

・第1章 市民討議会について

1 - 1. 市民討議会とは

従来、市政において方針や施策決定の際に市民の声を聴く仕組みとして、「地区懇談会」や「パブリック・コメント」、「市長への提言」などの手法を用いてきたがこれらに参加する市民は、それぞれの分野に長けた見識を持ち、積極的に意見する限られた少数の市民に左右される懸念があった。

社会全体の無関心層の想いが反映されることは少なく、市政に反映させる新しい手法として市民の平均的意見・無言の多数派（サイレント・マジョリティ）を収集し、市政に反映させていくプラーヌクスツェレと言う手法を応用し「市民の声」「社会の声」を行政に反映させる仕組みを考えた。

『市民討議会』は無作為に抽出した市民に参加を募り、承諾を得た市民にテーマに沿って討議（意見交換）をして頂き、結果については多数意見のみならず少数意見をも考慮した市民の意見としてまとめ、「市民の提言」として市政への反映を促すものである。

市民討議会の特徴

1. 参加者の無作為抽出

住民基本台帳から無作為に抽出した市民に「参加依頼書」を送付し、参加希望者を募る。

2. 参加者の有償性

参加者には報酬を支給

3. 専門家による情報提供

討議の前に、行政担当者などから現状・課題について情報提供を行う。

4. 参加者が討議・意見集約

グループ別討議により意見を集約し、合意形成をする。

5. 討議結果のまとめと公表

討議結果は市への提言書として提出し、その内容は市のホームページなどで公表する。

1 - 2. たじみ市民討議会について

《Heart of Tajimi たじみ市民討議会 実施概要・経過》

1 - 2. 1. 『たじみ市民討議会』の目的

多治見市では「地区懇談会」の実施や「パブリック・コメント」の募集の他、「シンポジウム」の開催など数々の手法で市民参加を促している。

これらに加えて、ドイツのプラーヌクスツェレを参考にして、サイレントマジョリティーと言われる一般市民の声を行政に届け、まちづくりに活かすことで、市民の行政への参加意識の醸成と、市民と行政が協働するまちづくりを推進することを目的とする。

今回、私たちは多治見を住みよいまちにしたいという思いから『日本一住みやすいまち - たじみ』を基本コンセプトに、次世代を担う子どもをいかに育成すべきか。また、育成するために私たち市民は何をすべきかを考えてもらうために本市民討議会を開催した。

1 - 2. 2. 概要

2009年に、(社)多治見青年会議所が古川多治見市長に「市民討議会」を提案し、『たじみ市民討議会』実施に関する協定を締結し、第1回『Heart of Tajimi - たじみ市民討議会 2009 -』を開催した。

以後、毎年同様に開催してきた「市民討議会」を、今年も5月14日に実施に関する協定をボランティアスタッフが主導する実行委員会と多治見市との間で締結して、7月6日、7日の両日で、『Heart of Tajimi - たじみ市民討議会 2013 -』を開催した。

1 - 2. 3. 報告書の位置付け

本報告書は、たじみ市民討議会実行委員会と多治見市が締結した『Heart of Tajimi - たじみ市民討議会 2013 -』（以下、「たじみ市民討議会」という。）の実施に関する協定書に基づき、市民討議会実行委員会と(社)多治見青年会議所（協力）、多治見市（共催）でたじみ市民討議会を実施し、その討議の結果を市民提言として多治見市に市政への反映を求めるとともに、市民討議会という新たな市民参加の取り組みについて検証、評価したものである。

本報告書は、上記協定書に基づきたじみ市民討議会実行委員会が多治見市および(社)多治見青年会議所に提出するものである。

1 - 2. 4. 協定書締結

たじみ市民討議会は2013年5月に締結された実施に関する協定書に基づき実施された。協定書ではたじみ市民討議会の実施およびその手法の効果の検証、評価に関し、実行委員会と(社)多治見青年会議所、多治見市との関係や役割分担、相互協力の内容などを定めることとした。

1 - 2. 5. 運営組織

たじみ市民討議会を開催するにあたり、以下のように実行委員会を組織した。

実行委員長：水野 智恵子 (市民スタッフ)

副委員長：竹本 幸二 (市民スタッフ) 小澤 全和 (㈱多治見青年会議所)

委員：(市民スタッフ)

伊藤 敏樹 井戸 勝 大澤 孝子 梶田 朋人 奥村 絵梨香
河地 章 神戸 恒一 桐山 正 小池 雅子 田中 友二
古川 敦 堀部 京子 松永 哲一 吉田 有記

(㈱多治見青年会議所)

高木 貴行 松田 純 水谷 愛 板垣 邦彦 小栗 久美子
伊藤 誠基 大嶋 幸生 若尾 淳一 大嶽 秀暢 井村 敬一郎
田財 千裕 五島 龍太 原 正嗣 袴田 彰宏 大脇 恵一

亀田 大介 藤原 清 渡辺 裕丈

(多治見市役所)

柚木崎 宏 玉野 和道 赤塚 俊公

1 - 2. 6. 活動の足跡

会議、作業等	内容	備考
1月24日	実行委員会 キックオフ	
2月 4日	実行委員会 概要説明	
2月26日	テーマ選考 中テーマについて	
3月 7日	テーマ選考 (中テーマ)	
3月28日	テーマ選定 (中テーマ)	
4月 8日	テーマ選考 (討議テーマ)	
4月24日	テーマ選定 (討議テーマ)	
5月 8日	参加依頼書発送準備	
5月14日	多治見市と協定締結	
5月17日	情報提供依頼・補助係について	
6月 3日	情報提供依頼	
6月 7日	会場下見	
6月19日	情報提供依頼・発表用模造紙作成	
7月 5日	リハーサル	
7月 6日	市民討議会開催 1日目	
7月 7日	市民討議会開催 2日目	
7月 9日	提言書作成	文化会館
7月31日	意見まとめ・提言書(案)作成	

8月19日	提言書作成	文化会館
8月24日	中間報告会 提言書の確認	産業文化センター
9月 3日	提言式 提言書提出	多治見市役所

1月末に実行委員会を組織し、度重なる実行委員会によるテーマ選定と、参加承諾書などの案内送付文書の封筒詰めや会場設営作業、討議テーマに関する意見のまとめ・提言書（案）の作成を行いました。中間報告会で参加者のご確認を頂き、9月3日に参加者代表と共に提言書を市長に手渡した。

1 - 3. 討議方法

1 - 3. 1. 討議テーマ

討議をして頂くにあたり、以下のテーマを設定した。

《大テーマ》

日本一住みやすいまち たじみにするには

《中テーマ》

子どもも大人も一緒に育つまちづくり

《討議テーマ》

1. 子どもと大人が上手に関わり合うには
2. 子どもに「たじみ」を好きになってもらうには
3. 子どもが安心して生活できる地域にするには
4. 私たちは地域の子ども達を健全に育てるために何をしたらよいでしょうか

・テーマ選定理由

少子化が懸念される中、多治見市においても次代を担う青少年の健全育成が課題と考え、『子ども』をキーワードに討議テーマとした。

具体的な留意点は以下3点である。

- ①市民にとって身近で関心の高いテーマであること
- ②具体的な意見交換やアイデアの出やすいものにすること
- ③行政に対して具体的な提言のできるテーマであること

1 - 3. 2. 参加者について

20歳以上の多治見市民を対象として、住民基本台帳から無作為で1,600人を抽出し、参加を呼び掛ける参加依頼書を送付した。

参加を承諾した34人のうち、当日の参加者は23人であった。

1 - 3. 3. 謝礼について

参加者には発言に責任を持っていただくという意味で報酬を支給した。

1 - 3. 4. 情報提供について

4つの討議テーマについて、以下の4氏に情報提供を依頼した。

討議テーマ1 「子どもと大人が上手に関わり合うには」

子ども会議 スタッフ 吉田 企貴 氏

討議テーマ2 「子どもたちに「たじみ」を好きになってもらうには」

多治見市精華校区青少年まちづくり市民会議会長 渡邊 正紘 氏

討議テーマ3 「子どもが安心して生活できる地域にするには」

多治見市子ども会連合会会長 奥村 里美 氏

討議テーマ4 「私たちは地域の子どものために何をしたらよいでしょうか」

多治見市土岐川観察館館長 宮島 弘佳 氏

1 - 3. 5. 話し合いのルール

5つのグループ（4～5人／グループ）で、テーマごとにグループのメンバーを入れ替えて行った。

討議は、各グループに2人の補助係（スタッフ）を配置し、補助係が適宜アドバイスしながら進められた。

参加者の自己紹介の後、「進行係」「まとめ係」「発表係」を決め、

- ・全員が発言する。
- ・意見は1件1葉で付箋に記入して話し合いシートに貼り付ける。
- ・他人の意見を否定しない。
- ・時間を守る。

を約束事とし、話し合いシートに整理して「まとめ」3件以内と「残したい意見」として記入する。

- ・進行係：テーマに沿ってグループ員の発言を促し、討議を進行する。
- ・まとめ係：出された意見をグループ員の合意を得てグループの意見としてまとめる。
- ・発表係：まとめた意見を「まとめ」1～3および「残したい意見」を発表する。

1 - 3. 6. 投票

討議テーマ1つごとに各グループが発表を行い、共感できる意見（まとめ1～3、残したい意見）に全員が投票する。

投票はテーマごとに一人5枚のシールを貼り付けることとする。

・第2章 たじみ市民討議会の結果と提言について

たじみ市民討議会における参加者の意見の結果は、実行委員会で分析・精査した。
その結果を以下に示す。

2 - 1. 討議会における意見のまとめ

① 討議テーマ1 『子どもと大人が上手に関わり合うには』

「交流」に関する意見（45 票）

町内会で新旧住民の交流や子ども会活動の活発化
大人が子どもに笑顔であいさつをする
大人同士、大人と子どもが安心して交流できる場の活性化
（ラジオ体操・大人こどもサロンなど）
親世代と子どもが交流できる仕組み作り
あいさつして欲しいが、不審者への警戒心も持ってほしい
親世代のあいさつも活発に（あいさつ運動の推進）
大人から子どもに関わっていく（遊び・玩具・読み聞かせ）
あいさつキャンペーンの活動

「イベント」に関する意見（28 票）

子どもを中心にした大人参加型の会議・サロンの活性化
地域のボランティアに親子で参加できるようにする
多治見市内でホームステイできるようにしてはどうか
大人と子どもが集まれるイベントを企画する
子どもが少なくなり、高齢者が多い。関わり合えるイベントを企画・活性化する
大人も子どもも区別なく参加できる催し（地域清掃・運動会）を企画する
子ども目線での魅力的な催しを企画する
子どもが主導し、大人も楽しめる行事の企画

「環境」に関する意見（12 票）

大人も子どもも安心して集まれる場所が欲しい
家の近くに公園が欲しい

「見守り」に関する意見（11 票）

子どもの登下校を見守る（パトロールする）

「その他」の意見（8票）

大人と子どもがお互いに尊重できるようにする
（子ども権利条例の大人版を制定する）

② 討議テーマ2 『子どもにたじみを好きになってもらうには』

「環境」に関する意見（60 票）

子どもだけで移動できる環境が欲しい

子どもが自慢でき、健全な遊びができる場所が欲しい

(企業や商業施設の誘致をしてほしい)

中・高校生が楽しめるまちづくり (映画やショッピング)

子どもが生きやすい公園づくり

大型ショッピングモールが欲しい

街の美化を図る

子どもだけで移動できる、安心して分かりやすい交通手段の検討

自然や子どもの居場所を残す

危険な場所と人がいない安心なまちづくりをする

「文化・自然」に関する意見 (28 票)

子どもボランティアで多治見の自然、歴史を広報する

多治見の誇れる財産を広報する

自然も残してほしい

災害に強いたじみを学ぶ

「イベント」に関する意見 (15 票)

自慢できるような花火大会を開催する

大人も子どもも一緒に楽しめるイベントを企画する

行事の伝達方法を見直す

子ども参加型まちおこし

親子で楽しめる文化、伝統行事の開催

「家庭」に関する意見 (3 票)

成長した時に自慢できる家庭環境を作る

「その他」の意見 (1 票)

子どもだけで行ける場所やイベント

③ 討議テーマ3 『子どもが安心して生活できる地域にするには』

「環境」に関する意見 (54 票)

子どもが自由に移動できるようわかりやすい地図を設置するなど環境整備をする

歩道、車道を明確に区分し安心安全な生活道路の確保

子どもと町の整備

遊んで良いよ！マークの表示などする

通学路を見直す (マップ・目印の設置)

子ども 110 番の充実 (水飲み場の設置など)

街灯の充実

「地域」に関する意見 (33 票)

地域交流の場の創設

見守り隊の充実

地域で様々なルールを学ぶ機会を提供する

大人が地域の子どもの関心を持つ

あいさつとモラルの教育をする

「コミュニケーション」に関する意見（11 票）

あいさつ運動の展開

親同士が信頼し合える関係を築く

「その他」の意見（12 票）

学童保育の整備をする

子ども自身が安全を考え判断する教育をする

携帯電話の社会化実験をする

④ 討議テーマ4

「私たちは地域の子どものみを健全に育てるために何をしたらよいでしょうか

「コミュニケーション」に関する意見（39 票）

大人と子どもの交流機会を工夫する

他人の子どもも見守る

あいさつ運動の充実

積極的に声を掛ける（ほめる・話を聞く）

地域のコミュニケーションを向上する

地域の交流行事を促進する

子どもの集まりに参加させる

「親」に関する意見（31 票）

子どもの人権を尊重し、家庭内で役割を与える

大人のモラル向上

大人同士のコミュニケーションを図る

親同士が良し悪しを教える

親のケアも大事

「保育」に関する意見（24 票）

学童保育の費用を安くして欲しい

託児所・保育所の時間を延長してほしい

「環境」に関する意見（4票）

景観を良くする

ききょうバスの運行を見直してほしい

「その他」の意見（14 票）

課外授業をしてほしい

予防接種

子どもへの情報提供が大事

以上の結果を『提言書（案）』として中間報告会において討議会に参加した市民の承認を頂き、次のとおり『提言書』として9月3日に古川多治見市長に手渡した。

市長は特に以下2点に注目し、早速担当部局に検討を促すよう指示をされた。

- ・ 討議テーマ 2 子どもボランティアの育成
 - ・ 討議テーマ 4 大人の得意分野を生かした様々な事を子どもへの伝達する仕掛けづくり
- (以下、提言書を示す。)

提言書

「Heart of Tajimiーたじみ市民討議会 2013」に関する提言書

平成 25 年 7 月 6 日、7 日に開催されました「Heart of Tajimiーたじみ市民討議会 2013ー」に於いて討議された意見を以下のとおり提言いたします。

大テーマ『“日本一住みやすいまち” たじみにするには』

中テーマ『子どもも大人も一緒に育つまちづくり』

討議テーマ 1 : 子どもと大人が上手に関わり合うには

子どもと大人が上手に関わり合うために、子ども大人との距離感を縮め、一緒に参画できるしくみを作り上げていくことを求めます。

- ・ 大人から子どもにあいさつの大切さを教えるために、スタンプカードを用いたあいさつキャンペーンなどを利用した啓蒙活動を望みます。
- ・ 地域の大人と子どもが一緒に关われるよう、各種イベント(ラジオ体操、昔のあそび、おもちゃ修理、読み聞かせなど)やボランティア活動(清掃活動等)との橋渡し等を市が積極的に行っていくことを望みます。
- ・ 大人と子どもが安心して集えるような施設(整備不良のない公園等)を望みます。
- ・ 安心して利用できる施設を活用した交流の機会(多治見ホームステイ、老人ホーム慰問等)を創出していくことを望みます。

討議テーマ 2 : 子どもに「たじみ」を好きになってもらうには

子どもに「たじみ」を好きになってもらうために、子どもが安全に楽しめる環境を整備するとともに、多治見の魅力を積極的にアピールしていくことを求めます。

- ・子どもが安全に楽しめる魅力的な施設(娯楽施設や商業施設等)の誘致を望みます。
- ・老朽化した施設(ガードレールや歩道橋等)の補修等による町の美化を望みます。
- ・多治見には修道院や永保寺などすばらしい財産がたくさんあります。子どもボランティアを育成するなど広報の仕方を見直し、多治見の魅力を強くアピールしていくことを望みます。
- ・子どもが安全に安心して、多治見を移動できるような自転車専用道路の整備を望みます。

討議テーマ3：子どもが安心して生活できる地域にするには

子どもが安心して生活できる地域にするために、安心、安全のためのセーフティネットが必要だと考えます。そこで様々な観点からのセーフティネットの構築を求めます。

- ・子ども達にとって安全な環境作り(歩車道の分離、街路灯の設置、樹木の適正管理、水飲み場の設置、ききょうバスの子ども無料化等)を望みます。
- ・子ども達が安心して生活できるよう、見守り隊組織の充実や『子ども110番の家』の見直し等を行い、地域全体で子どもを守るような仕組み作りを望みます。
- ・危険予知訓練(大声をあげる練習等)、危険個所のマップや防犯ブザーの配布など防犯対策を望みます。

討議テーマ4：私たちは地域の子どものを健全に育てるために何をしたらよいでしょうか

私たちが地域の子どものを健全に育てるために、以下が必要だと考えます。そして、これらに対する積極的な支援を求めます。

- ・大人が得意分野を活かして子ども達に様々なことを伝えられる仕掛け(楽器や書道などの道具の貸し出し、寺子屋、カウンセラー等)の充実を望みます。
- ・各種イベント(課外授業や職場体験等)を充実させることで、大人も子どもも必要なことが学べるような仕組み作りを望みます。
- ・親子間を含めた大人と子どものコミュニケーションを活発にするために、事例集(褒め方、見守り方等)を発行するなどの積極的な啓蒙活動を望みます。
- ・子どもが健全に育つためには、子育て環境の整備も重要です。託児所や保育所の充実、保育料の補助や小児医療補助の充実などのほか、困った時の相談窓口を設置するなどより子育てがしやすい環境の整備を望みます。

平成 25 年 9 月 3 日

たじみ市民討議会実行委員会
実行委員長 水野 智恵子

・第3章 たじみ市民討議会の検証

3 - 1. たじみ市民討議会の有効性

たじみ市民討議会はドイツで行われた市民参加の手法であるプラーヌクスツェレを参考に実施してきた。

実行委員会は多治見市と協定を締結し、(社)多治見青年会議所の協力を得て企画・運営など様々な工夫をして多治見独自の市民討議会を心掛けた。

最大の成果は、多数の市民が市民討議会に参加することにより、行政への参画意識を醸成できたことであり、施策に資する質の高い提言を行うことができたことである。

3 - 2. たじみ市民討議会の効果

多治見市において市民討議会の有意性が実証され、今後も継続して実施すべき必然が証明された。

・市民の参画意識の高さ

無作為抽出による参加募集の呼び掛けに対し 34 人が応募し、当日は 23 人が参加した。多治見市民の行政への関心の高さが伺える。

・質の高い話し合いと提言

参加者の活発な話し合いにより合意形成された 80 件の意見がまとめられ、4 つの討議テーマに対して 15 の提言を行った。

話し合いの内容についても、行政に要望するもののほか、市民として自らが実行すべき課題が明確に示されており、実現可能な有意義なものであった。

・参加者の参画意識の高揚と高い満足度

参加者アンケートにみられるように「自分の意見が言える」「これって何？が動機」「市政にどのような関わりができるか勉強のため」などの意見が多く、『自分たちのまちは自分たちで良くする』という高い参画意識が証明されている。

さらに、「知らない人とまちについて話し合えたことは楽しく、有意義であった」

「もっと市民が参加できる機会を企画して」などの意見もある。

また、参加者の 8 割が「参加意識が持てた」「運営にも関わりたい」「行政に関心を持てた」とポジティブに回答している。

3 - 3. 今後の取り組み

私たち市民は、今回の提言を基に反映される市政をウォッチしながらフォローアップし、さらにブラッシュアップして市民参加の意識を醸成し、向上を図る。

そして、多治見を住みやすいまちにしていくために、行政と市民が互いに協働できるまちづくりを目指して、今後も活動を続けていく。

終わりに 市民討議会に寄せて

地方自治のあり方について、2009年7月の第45回衆議院総選挙でも各政党のマニフェストで地方分権に関して大きく取り上げられました。当時、中央集権型社会から地域主権型社会への傾向が強くなる中、私たちとしても「市民参加」「市民との協働」など行政への市民参加を求める声が高まってまいりました。

地方自治には、団体自治と言われる都道府県や市町村などの地方自治体による運営と、住民自治という、その地方の住民の意思による運営があります。住民自治の根底には、民主主義の主役は私たち市民であり、地域社会はその地域住民のものであるとの意識があります。

自分たちのまちは自分たちでつくるという自治の考え方を私たち市民が持たなければならぬと感じました。当時より、多治見市は行政への市民参加を推進していましたが、方法としては地区懇談会やパブリック・コメント、市民意識調査、審議会などの機会でありました。

しかし、このような参加機会の多くは公募型であり、一部の既存組織や団体の代表者、またそれぞれの分野に興味を持ち、時間的にも比較的余裕のある、限られた市民の意見になる懸念がありました。すなわち、社会全体の意見になっているかという疑問を持つ中、真の市民自治による協働のまちづくりをさらに推進していくためには、市民参加の新たな手法に取り組む必要があると、私たち(社)多治見青年会議所は考えました。

そんな中で私たちは、ドイツで行われているプラーヌンクスツェレという手法を日本版にアレンジした、無作為抽出型市民討議会に着目しました。東京都千代田区で最初に行われ、関東地区で頻繁に実施されていました。これは、地域住民から無作為に抽出した市民によって討議を行っていただき、その意見を集約して、地域社会や行政に提言するというものです。この新しい市民参加が「無関心層」の地域住民の意識改革に繋がり、全ての住民が地域社会を形成していくと感じていただけたと考えました。

このような行政への市民参加の機会を創出することで、参加型民主主義の社会になっていき、地域に活力が生まれ、また市民の皆さんが行政への関心も高まることになります。そして、そのような活力ある地域が数多く存在する社会になることで、真の地域主権のある社会の創造に繋がると確信をして市民討議会を立ち上げました。

このような経緯で2009年より始まった市民討議会ではありますが、参加者の無作為抽出をすることによって、社会全体の市民、無関心層やサイレントマジョリティー(物言わぬ多数派)といった市民に参加していただく中で、多治見市の課題について話し合っていただき、そこでまとめられた意見は、多治見市民の平均的な意見と捉えることができ、年を重ねるごとに市民の声を行政に届け、市政に活かしていく仕組みができつつあると感じています。

市民討議会5年目を迎え、主体的に参加する市民の方が拡大していることを感じる中、既存組織である私たち(社)多治見青年会議所が主導することよりも、無作為抽出で選ばれた市民が自主的に参画し活動していく組織へ移行していく時期であることを認識しました。そこで本年2013年の市民討議会より運営主体を市民主体の実行委員会へ移管しました。

地域社会はそこに住む住民のものであり、住民の意識と行動が変わらなければ地域は変わりません。市民の意識の変革の中で、今後の市民討議会により行政と市民による協働のまちづくりを推進し、本当の地域主権の社会が創られていくと願っています。

(社)多治見青年会議所

地域の宝創造委員会 委員長 高木貴行

参考資料

・プランungskスツェレ（計画細胞）とは

（独：Planungszelle：プランungskスツェレ（計画細胞））は、独ヴパタール大名誉教授ペーター・C・ディーネル博士により 1970 年代に考案された市民参加の手法である。

ドイツでは 1990 年の東西統一後、地方公共団体で住民投票制度が導入されたことに伴い、直接民主主義への認識が高まった。このような背景の中で、市民参加の手法の一つとしてプランungskスツェレが注目された。

最初に独シュヴェルムにおいて実験的に実施され、それ以降 50 カ所以上で 200 回以上開催されている。

博士はプランungskスツェレを以下のように定義している。

「無作為抽出で選ばれ、限られた時間・有償性で、日々の労働から解放され、進行役のアシストを受けつつ、事前に与えられた解決可能な計画に関する課題に取り組む市民グループである」

日本では 2005 年に東京都千代田区で開催され、多治見市では 2009 年に第 1 回を開催し、現在岐阜県では唯一の開催地である。

実際に行われた内容を踏まえ、簡単にまとめると以下のとおりである。

- ①解決が必要な、真剣な課題に対して実施する。
- ②参加者は住民基本台帳から無作為で抽出する。
- ③有償で一定期間の参加（4 日間が標準）。
- ④中立的な独立機関が実施機関となり、プログラムを決定する。
- ⑤ひとつのプランungskスツェレは原則 25 名で構成し、複数開催する。2 名の進行役がつく
- ⑥専門家、利害関係者から情報提供を受ける。
- ⑦毎回メンバーチェンジしながら、約 5 名の小グループで参加者のみが討議を繰り返す。
- ⑧「市民の意見」という形で報告書を作成し、参加した市民が正式な形で委託者に渡す。

「まちづくりと新しい市民参加」 篠藤明德 著（イマジン出版）より抜粋

1. 討議テーマ1 『子どもと大人が上手に関わり合うには』

- 16 -

B	グループ	渡辺久美 牧瀬律子 谷本治 田口翼
討議テーマ	①子どもと大人が上手に関わり合うには	
・子供と大人とのふれあいの場があれば良い 老人ホーム訪問etc. ・ふれあう場所をつくる。老人施設や児童館、公民館（場所、時間、対象者を明確にして） ・子供と大人との（他人の関係）遊び場づくり ・おとなと子供が集まる場所があるといい ・他人の子供さんと会話が遊びながら出来る事 ・スポーツ大会や将棋大会など目的をもったふれあいの場をつくる ・子供と交流するにはまずその親を攻略する（他人を不信の対象じゃなくて興味の対象にする） ・子どもを育てる大人の価値観が多様化しているので自分の子ども以外の子と関わるときはその子の親を尊重する意識が必要。 ・お互いに不信感や先入観をもたない ・子供の尊重誰がする ・子供の道徳観養生 上から目線が必要かも		
・積極的に声をかけることをためらわない 子供目線で話す。 ・意見を押しつけず考えを聞く（大人が） ・「多治見内ホームステイ」でよその子と交換親も可 ・「子どもの権利まもる」「保護者」以外にも広める		
・子供の成長過程での大人のつきあい方 ・地域の大人による子どもの見守り ・子供の価値観の理解、子供目線でのふれあい ・悪いことは悪いと貫く大人の姿勢		
・相手を否定しない姿勢は大人と子どもでも大事 ・見守り隊だけでなく旗当番も地域の方をお願いしたい。		
まとめ1欄	投票	
・大人と大人、大人と子供が、安心して交流できる場の創造周知（例えばラジオ体操やおとなこどもサロン）	●●●●●●●●	6
まとめ2欄	投票	
・大人も子供も区別なく参加できる催し（例えば地域清掃活動、運動会など）	●●	2
まとめ3欄	投票	
・大人と子供がおたがいを尊重できるようにする 多治見市こどもの権利条令’大人版’の発行、全戸配布	●●●●●●●●●●●●●●	8
残したい意見	投票	
・多治見市内ホームステイでよその子と交換、親同士も可	●●●●●	4

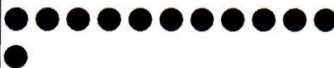
C	グループ	上村	相河	渡辺	中村	林
討議テーマ	①子どもと大人が上手に関わり合うには					
・地域の小学生を10～20名位で公民館および子どもさんの家を使い、月に1～2度位夜に親と子が集まって、色々なことを知るとよいと思う。 ・大人と子供が集まれるイベントを開催。 ・子供同士を一ヶ所にあつめる様な取り組み？ ・地域の子供と大人のイベントをふやす。						
・もともとの住民と新しく入ってきた住民との交流がないため、地域のイベントに参加できない。子供会。 ・子ども会が減少しているが参加をよびかけて活動が活発になるように呼びかける。 ・地域 公民館で親と子があつまる 名前を知る 誕生会を知る ・子供と関わる機会がない。 ・親どうしのつながりがない。						
・地域のボランティアの親子参加のひろがり ・清掃ボランティアを親子で行う						
・自治会の中でも話し合いをもっと出来れば・・・						
・大人が子供にあいさつをする。名前を呼んであげる。 ・シルバーセンター勤務の人と子供達との交流を進める						
まとめ1欄		投票				
・大人と子どもが集まれる多治見市主催のイベントをたくさん開催してほしい。		●●●				
		3				
まとめ2欄		投票				
・地域のボランティアに親子で参加できるようにしてほしい。（多治見市一斉清掃ボランティアなど）		●●●●●				
		5				
まとめ3欄		投票				
・町内会で、元の住民と新しい住民の交流や子ども会活動の活発化を推めてほしい。		●●●●●●●●●●				
		10				
残したい意見		投票				
・大人が子どもに笑顔であいさつ（声かけ）をしよう。		●●●●●●●●				
		7				

6

E グループ	名取 下野 鈴木 板橋
討議テーマ ①子どもと大人が上手に関わり合うには	
・大人が手本として胸を張れるか ・子どもを叱ることのできる大人が必要 ・子供会が低迷している	
・子どもから挨拶される(受け身)でなく大人から挨拶、声を掛けていく ・挨拶から町づくりできないか ・子どもは挨拶できるのに、大人が挨拶できない	
・長野＝畑、田んぼに大人がいる。地域の目があるから子供も自由に外で遊べる ・最近の子どもは家内での遊び、ゲーム・テレビ等が多い。大人(親)が積極的に外で遊ぶようにする ・大人も外に出る。防犯目的にもなるし、自然と子供と関わる機会が増えるはず ・子どもも大人も外で安心して遊べる場所 ・子どもが遊び大人が見守る町内 ・大人が遊んだ遊びを子どもに教えられる機会	
・子どもが安心して遊べる場所 ・家の近くで遊べる場所があれば子供が外へ出てくる。環境から ・子どもが外で遊べる環境(公園) ・近所に遊ぶ場所がある	
・公園があっても整備されていない ・今の公園は大人向け、子供向けでない。(広さ、きれいさく近さ) ・近所の公園が整備不良で危険な場所になっている	
<u>まとめ1欄</u> 近所に大人も子供も安心・安全に集まれる場所 (公園など)と機会の整備	投票  6
<u>まとめ2欄</u> 「大人も子供も挨拶をしよう」キャンペーン	投票  2
<u>まとめ3欄</u> 大人の方から子どもに関わっていく (昔の遊び、おもちゃの修理、読み聞かせなど)	投票  4
<u>残したい意見</u> 今の公園は広くてきれいだが、遠くて大人向けになっていつ	投票  6

A	グループ	青山千秋 高木拓希 下野勉 小栗静子 林エミ
討議テーマ	②子どもに「たじみ」を好きになってもらうには	
中高生は川や山では楽しめない。娯楽施設（映画館・ショッピングモール等）が必要 子どもから見て魅力的な街づくり → 娯楽と自然 子どもに好きになってもらう → 街に戻ってきてもらう → 戻ってくる子供はもう大人 中学生高校生になっても映画館など子どもが楽しめるような場所		
大人になってから、故郷に帰りたいかどうかは、いい思い出があるかどうか。人間関係を大人がサポート。 伝統を守るのも大事だが、時代に逆らわない新しい考えの取り入れ 文化に触れられる機会（歴史・映画・娯楽）		
多治見の公園は子どもが歩いて行くには遠すぎる。車で行くなら、もっと楽しい市外の公園に行く。 楽しい公園にしてほしい。 親子で参加出来る行事 楽しめる場所をあまり知らない（親たち）		
川で遊ぶとしても親世代がそれになじみがない。みんなでふれあうためには小学生以外でも参加ができること。 多治見に住むようになって、蛍をみれたこと。子供たちも見たことがある。 大人の自然に対する危機意識を減らす 子どもたちだけでも行ける自然環境（川、山）必要ではないか。 川 自然にいける 川の怖さ自然の楽しさを体験すること 自然環境と接するうえでの安全教育→但し、過剰な安全・危険意識が自然離れを生む 自然を親しむ機会 山、川等		
まとめ1欄	投票	8
まとめ2欄	投票	3
まとめ3欄	投票	1
残したい意見	投票	6

B	グループ	岸道子 鈴木勝也 渡辺久美 中村雅海
討議テーマ	②子どもに「たじみ」を好きになってもらうには	
・いろいろな行事があるのに知らなさすぎる、どんな方法 ・自然とふれ合い→見守りがあっての’遊び’ →川遊びをもっとアピールすべき。 定期的（毎週日曜日に開催とか） ・多治見市の中で色々なイベントが実施されているが周知されているか、市民への伝達は広報だけでよいか？ ・親が多治見の事をあまり知らないもっとよく情報を知ることが出来れば ・宣伝になる場所 例えば泳保寺、修道院あたりを上手に知らせる ・地球村の利用どうすればいいかな ・親の世代が子どもをつれて行ける様な所があれば子どものきおくに残るのではないかな？ ・中、高校生が学校帰りによれる所があればいいのでは ・自まんでできる所（観光）→子供が大きくなった時に自まんでできる場所（修道院、泳保寺）の教育 ・多治見には道の駅に似た物もないから1つぐらいあったら？ ・ショッピングモールがあると良いかも（イオンモールとか？） ・親と子が一緒にすごせる場所があったらショッピングモールとか？		
まとめ1欄		投票
・色々な行事などの伝達方法の見直しをする （達人のお話など・・・）		●●● 3
まとめ2欄		投票
・多治見にもほこれる財産がある事を知ってもらう （泳保寺、修道院、地球村など・・・）		●●●●●●●● 8
まとめ3欄		投票
・大型のショッピングモールがあるといい。 （親と子、子どもだけでも行ける所、道の駅など・・・）		●●●●●●● 6
残したい意見		投票
・近代化しすぎずに自然も残してほしい。		●●●● 4

C	グループ	相河富美子 澤田真由美 若尾奈詞子 谷本治 鈴木康司
討議テーマ	②子どもに「たじみ」を好きになってもらうには	
・自然とふれあい体験をリードする 木の実つみ、山菜つみ ・多治見の歴史文化を知る 多治見に引っ越してきた家族に研修させる ・自然とのふれあい体験をリードする 川あそび 山歩き ・大人が多治見の魅力を知らない → 転入してきても知る機会が欲しい。 ・多治見の自然、歴史を広報 ・観光ボランティアをガイドの子どもにしてもらう 育成		
・自然探索ボランティアガイドの育成 ・きれいな公園よりも自然をそのまま残してほしい ・中高生の遊べる場所（研究調査必要） ・有名企業の誘致 ・川や自然は小学校くらいまで中高生は外の遊び健全な遊び場所 ・商業施設を誘致してほしい → ショッピングセンター、映画館、ボーリング場etc… ・子どもが自まんでできる → 比較できないから知ってる有名企業あるとうれしい ・子どもは多治見しか知らないのが当たり前 ・子供が成長したときに自慢できる家庭家族大切 ・多治見を出てみてやっぱり多治見と思い帰って来る環境 ・家庭が暖かくて初めて多治見に戻りたいと思う。 ・災害に強い多治見を教える		
・多治見は安全なところというイメージ災害に強い ・子供が感じている多治見での不満を聞ける機会 ・自然災害に強い地域であることを子ども達に伝える ・地形的に安全だということを子どもたちに伝える → 学校教育、家庭教育		
まとめ1欄	投票	12
・多治見の自然、歴史を広報 ・子どもによる観光ボランティアガイドの育成 ・自然探索ボランティアガイドの育成		
まとめ2欄	投票	10
・有名企業や商業施設の誘致 ・子どもが自慢できる知ってる有名企業があるとうれしい ・中高生の健全な遊び場所があるとよい (ショッピングセンター、映画館、ボーリング場など)		
まとめ3欄	投票	4
・災害に強い故郷多治見を学ぶ 過去の自然災害、地盤の強さをパンフレットにまとめて 広報する		
残したい意見	投票	3
・子どもは多治見しか知らないのが当たり前なので、子ども が成長したときに自慢できる家庭環境が大切		